

## 会員の広場



### カンボジア支援の旅

田川 修司（東京）

数年前に、カンボジアのボランティア活動団体のNPO法人SCHEC（カンボジアの健康及び教育と地域を支援する会）の活動を知り感銘を受けてから、毎年カンボジアへのボランティア活動に参加しています。井戸掘り事業、小・中学校校舎建設、歯科診療活動の3本柱を中心にした支援活動を行っております。

今回も、シエムリアップ州周辺の農村において、現地の人々が安全できれいな水を飲めるようにと約120本の井戸の提供活動、それと学校の絶対数の不足によって学校に通えない子どもたちが就学機会を得られるように小学校校舎と中学校校舎の二つの学校の寄贈と開校式に参加して来ました。その他に、歯科医師チームの人達は、歯科医師の不足によって治療を受けられない農村部の人々のために、歯科診療や治療、ブラッシング指導等の活動を行っていました。今年の夏は、雨が少なかったせいも、乾期が始まる11月になっても雨が残り、激しいスコールが時々ありました。蒸し暑い気候に汗をビツシヨリとかきながら、雨にぬかるんだ赤土の細い道、稲穂の茂げる自然豊かな田んぼの畦道を苦戦しながら歩み、茅葺の高床式の貧しい建物の横にある井戸を探しながら家々を巡りました。

シエムリアップ州の村々の隅々まで訪問して、現地の人々とコミュニケーションを取り貴重な時間を過ごしました。そのような機会に、『チョムリアップ・スオ』『スオスダイ』（初めまして、こんにちは）と子供たちに笑顔でここにこしながら声をかけて呼びかけると、沢山の子供達が挨拶に応じて集まってきた。



カンボジアの子どもたち  
夢見る瞳を支援する!!!  
田川 修司

ます。季節外れの汚れた服をまとった裸足の子供達、ある子供は生まれたままの全裸の姿を着て履物を履いていれば良い方です。温暖な気候なので想像以上の状態でした。しかし、見つめる子供達の瞳はみんなキラキラ輝いていて澄んだ瞳が印象的でした。この子供たちは、将来はどの様になるのだろうか。将来は？この格差は？カンボジアの空の下で「井戸を掘った人を忘れない」という中国の諺をふっと思いついていました。世界には、いろいろな人々がいるのだとつくづく考えさせられる毎日でした。ほんの少しの好意が、多くの人々の喜びに繋がる。このカンボジアでの支援活動で行動した結果は、笑顔ときらきら輝く瞳の記録に残る素晴らしい日々でした。「カンボジアの子どもたち

夢見る瞳を支援する」という素晴らしい映像にも恵まれ写真集を制作しました。